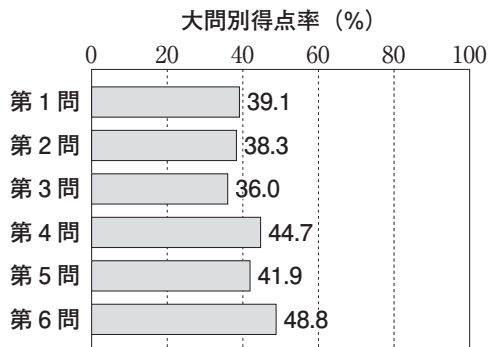
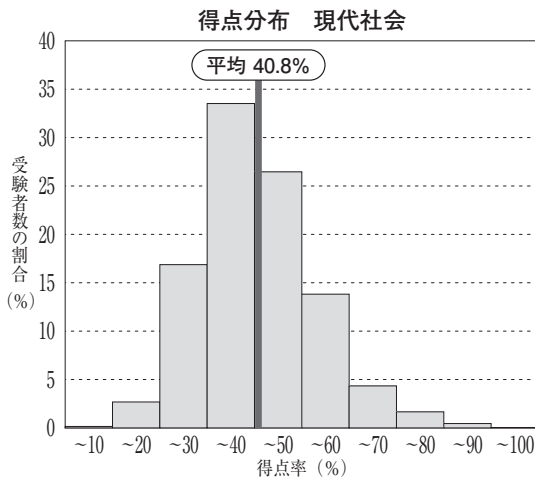


現代社会

すべての分野の底上げのために、学習および復習の徹底を。

I. 全体講評

「第3回6月センター試験本番レベル模試 現代社会」の平均点は、40.8点であった。前回4月の結果より3点ほど下回っており、センター試験本番の平均点レベルには約20点の開きがある。第4問「国際経済」や第6問「地球環境問題」は比較的得点率が高く、第3問「国際連合」は最も得点率が低かったが、全般に大問間の得点率の差は小さく、50%を超える得点率の大問は一つもなかった。本番レベルに対応できるようになるためには、すべての分野・事項について今一度学習の徹底が必要であることが示された結果とも言える。



II. 大問別分析

第1問 財政・国民所得

財政構造や経済用語の正確な理解を。

財政や国民所得など、高校生の多くが苦手としがちな経済分野をベースとしたオーソドックスな出題の大問であったが、得点率はこの模試の平均得点率に近い数値であった。そのなかで、日本の財政構造についての出題であった問1 [1]、GDPの概念について問うた問5 [5]、日本のODAについて問うた問8 [8]が3割以下の正答率であった。特に問5は正答率が21.7%であり、③の選択率が50%を超えていた。GDPとGNPの違いをもう一度整理しよう。

第2問 宗教

世界の主要宗教の学習の徹底を。

宗教という「現代社会」のなかでの倫理分野からの出題であったが、この模試で2番目に正答率の低い大問となった。なかでも正答率が低かったのはイスラーム教の五行についての問5 [13]であった。問5の正答率は20.7%であり、③の選択率が約半数であった。イスラーム教では偶像崇拜を厳格に禁止しているという基礎知識を知っていれば即座に正解の②を選ぶことができる問題である。だが、この正答率からも分かるように、いわゆる「常識」で対処できる問題ではない。イスラーム教は時事問題としても注目を集めており、今回のような切り口の出題を予想して対策しておくべきである。

第3問 国際連合

国際紛争や安全保障機構を確実に理解しよう。

高校生が苦手としがちな国際政治および経済分野にまたがる出題の大問だが、この模試で最も得点率の低い大問となった。地域紛争について問うた問2 [15]、安全保障理事会について尋ねた問4 [17]は、特に正答率が低かった。なかでも、この模試で最低の正答率となっている問2は、冷戦期と冷戦後の

時代把握が正解と逆になっている②の選択率が最も高かった。これは、冷戦以降の国際紛争を把握できていない受験者が多数であることを示している。地域紛争は頻出事項なので、しっかり理解できていれば本番で確実に得点できることを理解しておこう。

第4問 国際経済

国際収支表など、統計への対策も徹底しよう。

国際経済分野のオーソドックスな大問であり、2番目に得点率が高いという結果であった。そのなかで、国際収支表の項目についての理解を尋ねた問4 [25]が最も正答率が低く、23.1%であった。新統計への変更を正確に理解していれば選ばずにすんだ①の選択率が、正答率をはるかに超える4割以上に達していた。国際収支表はその基本的な数値傾向も含めて理解を徹底しておこう。

第5問 地方自治

地方自治改革の一連の流れの理解を正確に。

頻出事項である地方自治に関する典型的な出題であり、平均得点率に近い得点率となった。そのなかで、日本の地方分権改革について尋ねた問2 [28]の正答率は23.9%と、この大問中最も低かった。「機関委任事務」と「自治事務」を逆転させた⑥の選択率が正答率より高いことから、「機関委任事務の廃止」という流れを理解できていない受験者が多い事実が明白となっている。

第6問 地球環境問題

環境問題では会議・条約名なども確認を。

環境問題をテーマとした「現代社会」的な出題であり、模試中最も平均得点率が高い大問となった。この分野に興味をもつ受験者が多いことを示す結果となっている。そのなかで、環境保護に関する国際的な取り組みについて出題された問3 [34]と、持続可能な開発について出題された問4 [35]がともに約40%の正答率となっている。主要な条約・会議などの名称と内容については頻出であるため、復習することで確実に把握しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆理論的事項を中心に学習・復習の徹底を。

「現代社会」は通り一遍の学習である程度得点できる、という感覚では本番で合格レベルの得点を取することは難しい。特に第3問「国際連合」などの出題傾向でも明白だが、ざっと勉強してニュースをチェックしています、というレベルでは太刀打ちできない種類の出題が必ず混ざってくる以上、科目として学習することで対応するしかない。学習していない分野は早急にテキストなどで学習するとともに、1回学習した分野でもテキストを読み直しながら各分野での用語の示す内容を体系的に再確認する努力をして、科目としての学習の完成度を上げる努力をしてみよう。そうすれば今回の模試の第2問問5 [13]などで見られた、「事項理解が不完全なため、一見正しそうな選択肢に飛びついてしまう」という解答行動を防げる。

◆次回の模試に向けて。

センター試験は、特に努力の成果がはっきりと出やすい。そしてまんべんなく出題されるため、多くの分野に対応できる力を養成する必要がある。また、第4問問4 [25]のようなセンター試験独自の出題形式にも慣れる必要がある。受験者には、自分が間違えた分野の復習は当然として、少なくとも「国際経済上の指標」、「世界の主要宗教」、「世界の紛争」については、次の模試までに再確認を行い、得意分野にする努力が求められる。